

令和7年4月20日

令和7年三月場所 東前頭十七枚目 6勝9敗

序盤戦白星先行も 5場所連続負け越し

四月でも夏日を記録する日があり、朝と日中の寒暖差が大きいこの頃ですが、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

御嶽海関は、後ろに一枚しかない番付の東前頭十七枚目で、幕内残留をかけ、三月場所に臨みました。

初日、琴勝峰関を立ち合いから押し込んだものの小手投げで敗れ、先場所からの連敗も止められず、不安な出だしとなりました。二日目、初口（しょくち）で初顔の時疾風関を立ち合いから攻め、寄り切りで勝ち、先場所からの連敗（13）と止めました。三日目も初顔の白熊関を破りましたが、四日目も初顔で新入幕の安青錦関に立ち合いから攻め込まれ、押し出されました。五日目も初顔の嘉陽関でしたが、この日は、立ち合いから足を止めることなく攻め続け、寄り切りで破りました。二日目から初顔との取組が続いた序盤戦を白星先行で終わりました。

六日目も初顔となる朝紅龍関を前へ出る相撲で下しました。七日目は、ベテラン佐田の海関との取組となり、立ち合いから一直線に攻め込んだものの土俵際で両差しを許し、反撃を受け、寄り切られました。中日も美ノ海関を立ち合いから一方的に押し込むものの好調な相手に残され、逆転の叩き込みで白星を逃し、連敗となりました。ここから、十日目まで連敗が続き、中盤戦を終え、黒星が先行しました。

十一日目、初顔の阿武剋関に敗れて5連敗となり、勝ち越しに後が無くなりました。十二日目、先場所敗れた宝富士関と際どい一番となり、軍配差し違いで連敗を止めました。十二日目、錦木関との一番も制し、負け越しを前に踏みとどまりました。しかし、十四日目、明生関に会心の相撲を取られ、負け越しが決まりました。幕内残留が微妙となった千秋楽は、翠富士関との取組となり、一気に前へ出たところを相手得意の肩すかしに屈し、幕内残留が厳しい6勝9敗で場所を終えました。

優勝は、千秋楽で共に白星をあげた大関大の里関と高安関の優勝決定戦（12勝3敗同士）となり、本割りでは高安関に敗れた大関大の里関が制し、3度目の優勝を果たしました。今回も場所を振り返り、紙面とします。

東前頭十七枚目としての三月場所

御嶽海関からのひとこと



場所前 上半身と下半身が連動できているか意識したい。強い自分を見て、落胆している人もすごく多いと思います。その中でもしっかり応援してくれている人はありがたい。御嶽海は強くなってきたんじゃないと僕も思わせたいし、思ってもらいたい。そのために勝って勝ちまくるしかない。自分の相撲が続くうちは、どんなことがあっても応援し続けてほしい。

場所を終えて 三役にすら一度も戻っていない。現役引退には正直、怖さがある。

場所	勝敗	取組	決まり手	コメント（各報道・情報機関からの要約）
初 日	●	前十六 琴 勝 峰	（小手投げ）	「稽古して場所に入れて、初日から立ち合いで押し込む相撲が取れた。後は微調整の部分。」
二 日目	○	前十八 時 疾 風	（寄り切り）	「自分の相撲を取ることで精いっぱい。もっと厳しい相撲でいきなかった。」
三 日目	○	前十七 白 熊	（上手投げ）	「良く残ったね。体の動きはめちゃめちゃいい。でも強い相撲、前へ出る相撲を取りたい。」
四 日目	●	前 九 安 青 錦	（押し出し）	「スピード感は感じなかったが、距離の取り方が上手かった。自分の差し手が入らなかった。まだまだと思っているうちに負けてしまった。ただそんなにひきずるような内容ではない。」
五 日目	○	十 二 嘉 陽	（寄り切り）	「落ち着いて足を運んでいる。」

- 六 日目 ○ 前十六 朝 紅 龍（寄り切り）「しっかり丁寧に、意識して相撲を取っている。相手は思いきり来るから、こっちも緊張する。簡単には負けられない気持ちでやっている。」
- 七 日目 ● 前十五 佐田の海（寄り切り）～取材に応じず～
- 中 日 ● 前十四 美 ノ 海（叩き込み）「いい相撲を取っても勝たないと意味がない。」
- 九 日目 ● 前十四 竜 電（寄り切り）「窮屈だった。やっぱり無理。体はめっちゃ動いている。でも、結果が着いてこないね。」
- 十 日目 ● 前十三 獅 司（上手投げ）～取材に応じず～
- 十一日目 ● 前十二 阿 武 剋（寄り倒し）～取材に応じず～
- 十二日目 ○ 前十二 宝 富 士（突き落とし）「相手が落ちるのが見えて、俺も何とかしたいと思った。」
- 十三日目 ○ 前 十 錦 木（寄り切り）「とっさだった。崩してから、と思っていたので次が早く動けた。一気に行く。やり切るしかない。」
- 十四日目 ● 前十一 明 生（寄り切り）「立ち合いがいつもと違ったし、手をついていたかなと思うくらい早かった。まだ、終わっていない。もう一番が重要だから。」
- 千 秋 楽 ● 前十一 翠 富 士（肩すかし）「ただの一つの負けです。」

○ 木曽町相撲場 本土俵改修土俵開きから

令和10年信州やまなみ国民スポーツ大会相撲競技会の会場となる「木曽町相撲場」の本土俵が改修（土俵、観客席、吊り屋根等）され、昨年6月に竣工した「木曽町総合トレーニングセンター」と併せ、国スポ会場の施設が整いました。3月27日（木）に土俵開きが行われ、三月場所を終えた御嶽海関も出席し、式典、こけら落としの稽古に参加しました。御嶽海関にとっても良い機会となったようです。



こけら落としの稽古の後半では、原点「福島中相撲部」のゼッケンをつけて稽古を行った。



「全国でも一番の相撲場。自分に続く力士もこの地から生まれてくるはず。」と力強く祝辞を述べる御嶽海関

○ 出羽海部屋木曽合宿の開催決まる 6月25日(水)～28日(土)

4月10日（木）、高崎親方も出席し、出羽海部屋木曽合宿の実行委員会が開催されました。今年からは、竣工した「木曽町総合トレーニングセンター」が合宿場所（力士の宿泊と稽古の場所）となります。

28日（土）は、「木曽町相撲場」が稽古場、イベント会場地となり、地元商工会等の出店もあります。

26日（木）から稽古が始まりますが、施設が広くなったこともあり、会員以外の方も見学可能となります。合宿の詳細は、後日、お知らせする予定です。

○ 二枚目の優勝額、本後援会へ寄贈

令和元年九月場所の優勝額が五月場所初日の前日に国技館から下ろされます。御嶽海関から本後援会へ寄贈する旨の申し出がありました。最終的な設置場所は、「木曽町総合トレーニングセンター」を予定しています。出羽海部屋木曽合宿の際にご覧いただけるかもしれません。

五月場所は、十両筆頭での土俵になり、会員継続を辞退される方が増えています。御嶽海関の成績不振が響いているかと思いますが、今こそ応援いただける方が御嶽海関への大きな後押しになり、関取自身も力強く感じると思います。「木曽町相撲場」の土俵開きを終え、大阪へ戻る際には、良い表情を見せていました。会員の皆様方には、今年度も力強い応援をよろしくお願いいたします。

御嶽海後援会では新弟子を希望する方の情報を募集しています！